



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部



「みことばに触れ、食べ、生かされる」ために

鹿兒島市と奄美市で教区評議会

「みことばに触れ、食べ、生かされる」をテーマに掲げた教区評議会が、鹿兒島地区及び徳之島地区(十月十九日・カタドラル)と奄美大島地区(十月二十六日・名瀬聖心教会)とに分けて開催された。今回の狙いは信者にとって相応しい生き方を探ろうというもので、みことばとの接し方やそれを頂いた信者の生き方、社会で直面する諸問題についての信者としての解決法などを分かち合った。

郡山司教が教区長となつてから初の教区評議会(規定では二年に一度開催)が開催された。そのテーマは今秋のシノドス(世界代表司教会議)のテーマ「教会の生活と宣教における神のことば」に沿った「みことばに触れ、食べ、生かされる」。

このテーマは、祈りや秘跡にあずかっている、神ご自身から生きる力をもらうためにはどうしても信者各自が神の言葉である聖書に「触れ」「食べ」「生かされる」必要があるからと、司教評議会を決められた。また、実り豊かな会とするため、司祭、修道者、信徒の代表者からなる準備委員会が組織され、六月から会に向けての準備が進められてきた。準備にあたった



分科会・全体会での実りが願われる



全体会で分かち合いの内容を発表

司教評議会と準備委員会では、教区評議会が主任司祭と信徒の代表が出席する会であつても、テーマの性質上、小教区民全員の意見が

反映されなければならぬと、準備委員会が作製し配布したテーマを記したカードやポスターから受ける印象などについての分かち合いを勧めるなどしてきた。

十月十九日(日)カタドラルで開催された種子島を含む鹿兒島地区と徳之島地区の評議会には二十一の小教区からの約九十人が出席。郡山司教の挨拶「日々の小さな出来事の中で愛を生きるために」「誰からも評価されないところで信仰を生きるために」は、どんな生活をしたらいいのか

徹底して考えて欲しい」のメッセージを受けて、信徒の八グループと司祭団の二グループの計十のグループに分かれて約二時間の分かち合いをし、その後の全体会で報告し合った。

この日、大・中型バス二百十五台が来場予定だが、個人での車での来場も「駐車許可証」(八月で申込〆切)の提示がなければできないことになっているので注意して欲しい。また式典終了後、全員の退場には少なくとも一時間半程度かかる見込みとのことで、余裕のある計画で来場して欲しいとしている。

野球場(ビッグNスタジアム)(長崎市松山町)は、当日九時半開場予定だといふ。来場者は参加証を身に付け、できるだけ十一時までに所定の席(鹿兒島教区は祭壇に向かって左端AブロックのB1・C1)に着くよう望まれている。また雨天の際、雨傘の使用が認められないためビニールコートを用意する必要がある。

新風

「わたしは、あなたが迫害しているイエスである」(使徒言行録九章5節)。パウロは自分の心のきつかけとなった出来事

「わたしは、あぜ声の主は「自分を迫害している」と言うのか、と。キリスト信者とイエスが同一の考え方は、最後の審判での王のことばを思い出させます。「はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにして

を知らされたとき、そんな状態では主の晩餐を食べる資格がない、と厳重に注意します。最後の晩餐でイエスが「これはわたしの体である」と制定なさったわけですから「ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の

す。能力のある人々が多くて、教会が共同体として成り立たなくなる危険があったとき、パウロは言います。「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」(同上十二章27節)、と。

この話の後、パウロは有名な愛の賛歌を示します。そして、「信仰、希望、愛、この三つはいつも残る。その中で最も大いなるものは愛である」(同上十三章1-13節)、と結論付けます。すなわち最後の審判で問われる、「わたしにしてくれたこと」(愛)こそ、イエスとキリスト信者を一つにする行為だとパウロは考えていたのではないだろうか。

聖パウロ年に寄せて(その3)

を使徒言行録の中で三回も語っています。先のことばは、突然光に打たれて倒れたパウロが「なぜわたしを迫害するのか」という声に対して、「主よ、あなたはどなたですか」というパウロの問に対する返答です。

それは、キリスト信者を捕らえるためにダマスコに向かう途中の出来事でした。そのときパウロはおやつと思つたに違いありません。自分はキリスト信者を迫害しているはずなのに、な

くれたことなのである」(マタイ福音書二十五章40節)。イエスと彼を信じる人がひとつになることはイエス自身強調なさっていたことでもあります。(ヨハネ福音書17章参照)

体と血に対して罪を犯すことになりません(コリントの信徒への手紙一、十一章27節)と教えています。イエスと信者は一つなので、信者同士が仲たがいはいることはイエスが裂かれることになるのです。

この考え方はさらに発展しました。この考え方はさらに発展しました。この考え方はさらに発展しました。

YET

桜島の山すそから太陽が顔を出す瞬間に居合わせる早朝ランニングは至福の時を与えてくれる。穏やかな錦江湾に浮かぶ桜島、そしてその頂上にたなびく赤く焼けた雲、そこから「天国への梯」にも似た眩いばかりの光線が降り注ぐ。薄暗く自分の足音と呼吸音しか聞こえない世界から一変、視界が開ける清々しい時を迎える。もしかすると無信心極まりない者が、幾分なりとも神に感謝している瞬間なのかもしれない。そしてその時は、信者らしい一日を過ごすという決意したりする▼とはいえ「口先男」に決意を実行に移すのは困難。その日も走り出して数キロで、「信者らしい一日」を頭に描いてすぐだった。「寝ている間に靴を盗まれた」と言う野外生活のおっちゃんに訴えに耳を貸さず、走り去った。おまけに周回コースだったから、何度も無視した。言い訳は「祈りにも似たこのひとときを邪魔されたくない」である▼ある神父さんの黙想会での強烈なメッセージは「毎週ミサにあずかってご聖体を頂いて、祈って、それでも兄弟姉妹の悪口を言うならもうミサをやめた方がいい」だった。その時は、自分の身にはその言葉を用いることなく優越感(っ)で笑っていたが、あのおっちゃんとの出会いが僕への言葉だったこと」を覚えてくれた。今では日の出の時の決意の時に、ある種の躊躇いに襲われる。

教育修道会で司祭へと育てられた私です。「中・高校の先生になりなさい」と言われて、教育の「教」が気になり始めました。

教えるとは強い孝行するという字です。親が子どもを庇(かば)い、子は親を敬う「孝」に徹して生きることだと思いました。

小学三年で父が帰天し、女手一つで育てられた私は、「孝」の字が尊く、とても大切な心の働きとして響いてきました。命を育む使命を持った女性、しかも信仰の恵み(芽育む)を大事に子どもを育ててくれた母のお蔭様でしょうか。信仰を大事にした母の生き様から、私の心は栄養を沢山

信仰と漢字

イエズス会司祭 岡 俊郎

「天におられる私たちの父よ」と叫ばざるを得ないのでしよう。「祈」という字の「示」はT字型の祭壇の上に生け贄の肉をのせて血がたらたら垂れている様子。体で生きていくと思っている人間

が、祈りによって命の源である神の親心の中で生きていく。神に目覚めるのです。「神」という漢字が示す通りです。「申」は稲光です。生活体験の中で知り、拝む方が神なのです。現実には体が動くことに

りものと言われる通り、信仰深い母は私を命の源である神様にお捧げしながら育ててくれました。私という人間を命の働きとして、大切に心を込めて育ててくださいました。私は天から授かった命の働きとして育つてきました。

具体的には、両親が授かった命の働きに体を添えて一所懸命、食物と心を与え与らせて一人前の人間・大人・成人にしてくださいました。親の命の働きは元氣一杯、苦しいときにこそ「やる気」がこんこん(滾々)と湧いてくることをも子どもである私に教え、生き様として身に付けさせてくださいました。

「毎日のミサ」のみことばに生きる

みことばに触れ、食べ、生かされる④

国分教会 市来房枝

「みことば」は(一コリント・12・31〜13・3)愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず恨みを抱かない。私はこのみことばを心で反芻しながら厨に立った。

「今朝読み」聖書のみことば胸に留め実践せむと厨に立ちぬ」私は「毎日のミサ」の中で、特に心に響いたみことばに赤ペンで傍線を引き、更にその頁を目次の余白に書き出すことにしている。そして、子どもたちへの遺

言にしようと考えている。「お母さんは、これらのみことばに感動して生きてきたのよ」と伝えるために、洗礼を受けて以来、私の心に強く住み着いたみことばが幾つかある。その一つに「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。うすれば開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれ

る。」(マタイ7・8) 私はこのみことばを結婚の記念のカードに印した。その後、アウグスチヌス

の「告白」の最終章に辿り着いたとき、このみことばに再び出合った。私はこのときの感動をいまだに忘れることができない。また、このみことばは、私の生涯で二つの型で実証されたのである。一つは尊敬してやまないマザーテレサとの出会いに(写真)。もう一つは私が苦境に立たされたとき、夢にお現れになったマリアさまを訪ねルルドへ行けたことである。

この二つのことが実現したとき、聖歌三二一番の歌詞の中の「マリアに祈りし願いはすべてわが主はかならず聞き入れ給わん聞き入れ給わん」という言葉が私の口をついて出た。その時その時のみことばとの出会いは、一見偶然のように思えるが、決して偶然ではなく、一人ひとりが最も必要としているときに



マザーに謁見する市来さん (左から2人目)

司教執務室 便利

列福式を控えて

今思えば、どうしてこだわったのか自分でもよく分からないのだが、すでに聖人や福者とされた人たちはいいとしても、いまさら、列聖、列福でもあるまいにどの思いをめぐえなかつた。神様の前ではみんなが同じ神の子供なのにどうしてランク付けをするのか。天国でも差別するとは。子供たちに信仰を引き継ぎ、人知れずひっそりと世を去った市井の聖人だっているのではないのか。多分、そんな風な理由を述べ立てていたように思う。しかし、年を取ったせいもあるのかもしれないが、今は素直に喜びたい。ただ、十一月二十四日を祝った後、当たり障りがあるかもしれないが、「あかしだ、宣教だ」と張り切るのではなく、肩の力を抜いて、身

近な人々との普段のかかわりの中で自分自身のありのままの姿を素直に振り返ることから始めてはどうかと思う。そうすると、許し合うこと、認め合うことなどといったことがいかに難しいかに気づくはずだ。同時に、自分自身への「ハイ！」が多いゆえの不平不満の多さにも気づくはずだ。難しいといえれば人事ではない。とくに、若い頃の自分にとって難しかったのは素直に信者の声に心を聞き耳を傾けることだった。「敵の軍門に下る」ような悲壮な思いで信者の家に向いて相談したこともあった。「司祭だから」というよるいを身にまとい自分自身を不自由にしていただけでなく、信者たちをも不自由にしていたことに気づくまでの道のりは遠かった。



+KABAYAN SEKSIYON+ "Sumasampalataya Ako, Tayo"

Tayo'y may pananalig kung nagtitiwala tayong mangyayari ang mga inaasahan natin, at naniniwala sa mga bagay na di natin nakikita. (Heb 11:1) Ang pananampalataya ay isang personal na pakikipag-ugnayan kay Kristo bilang Panginoon at Tagapagligtas. Sa pamamagitan Niya, sa Ama, at sa Espiritu Santo, isang pasiya ito ng pagtatalaga ng sarili sa Kanya, ng pagsunod sa Kanya, ng pag-alam at pagtanggap ng mga katotohanang patuloy Niya ipinangangaral sa pamamagitan ng Kanyang Simbahan. Para sa maraming tao, "paniniwala sa Diyos" ang kahulugan ng pananampalataya. Ang Pananampalatayang Kristiyano ay paniwalaan ang Diyos na ipinahay ni Jesu-Kristo. Ang Katolikong Pananampalatayang Kristiyano ay nangangahulugan ng pagsampalataya na ipinakikilala ni Kristo ang Diyos sa atin sa loob at sa pamamagitan ng Simbahang Katolika, na katawan ni Kristo, at kaisa ng Espiritu Santo. Dito ang "sumasampalataya" ay nangangahulugan gawing ganap ang pagtawag sa atin ng Diyos upang ibahagi ang Kanyang banal na buhay-ito ang Kanyang pagpa pakilala sa atin. Ang pananampalataya ang ating tugong personal bilang "mga alagad ni Kristo" sa pagtanggap sa kanya "bilang Panginoon at Tagapagligtas." Ito ang ating "Tuloy po kayo!" kay Kristo na nakatayo sa may pintuan at kumakatok. Ngunit paano natin malalaman kung paano tayo tutugon sa Kanya? Ano itong tugon na tinatawag nating "pananampalataya?" Ginagamit natin ngayon ang "pananampalataya" upang bigyang-kahulugan ang iba't ibang bagay. Minsan, nangangahulugan ito ng ating lubusang pagtugon sa pahayag ng Diyos. "Ito ay upang kilalanin, mahalín, at sundin si Kristo sa Simbahan ng Kanyang itinatag". O, maaari natin gamitin ang "pananampalataya" upang ipakahuluga'y kabutihang asal (paniniwala) na iba sa pag-asa at pagmamahal. Ang pananampalataya sa ganitong kahulugan ay ang ating personal na pagkakilala sa Diyos kay Kristo na ipinahayag sa mga natatanging paniniwala sa mga tiyak na katotohanang pinaninindigan natin kay Kristo. Sa kabanatang ito, bimibigyang kahulugan natin ang pananampalataya bilang ating buong buhay kay Kristo ngunit may pangunahing pansin sa personal na pagkakilala kay Kristo bilang ating Katotohanan. Ang moral na kilos ng pagmamahal ang pagtutuunan ng pansin ng Ikalawang Bahagi ng katesismong ito, si Kristo ang ating Daan.

ザビエルの苦労を味わうために

第七回伊集院城山徒歩巡礼



徒歩巡礼に挑んだ強者たち

九月二十八日(日)「伊集院城山巡礼」が実施され、主催する青年たちとその呼びかけにこたえた強者の計十一人が約二十五キロの徒歩巡礼に挑戦した。

貴久に宣教の許可をもらうために一宇治城(伊集院)に向いたのを記念して行われているもので、青年たちが中心になって実施されている。今回で七回目となったこの催しに挑戦した巡礼団一行は、朝七時ザビエル教会聖堂で、波濤を越えて日本にキリスト教を伝えてくれたザビエルの苦労の一部でも体験し、今後の信者生活の糧とできるように」と祈りをささげ目的の地伊集院を指した。

降る生憎の天気だったが、聖歌を歌い、祈りを唱えながら苦行にも似た巡礼に挑戦し、五時間後、目的地一宇治城跡地に到着しミサをささげた。

秋空に八年ぶりの大運動会

枕崎カトリック幼稚園

九月二十三日(火)園児九人だけという小さな幼稚園で運動会が開かれた。枕崎カトリック幼稚園は昨年まで加世田聖母幼稚園の分園だったため、加世田

で合同の運動会を実施してきたが、独立して再出発したのをきっかけに「単独で運動会を実施しよう」と幼稚園関係者と父母たちが心を一つにしてきた。そして快晴に恵まれたこの日、郡山司教をはじめ前園長の小川神父、理事長の田原神父なども駆けつけ実に八年ぶりの運動会の実現となった。小さな運動会には、子どもたちの、父母たちの、

そして幼稚園関係者の温かい思いが一杯にあふれたよう、また来年も実現したい希望が出されたという。(枕崎通信員)



瀬留教会百周年に参加しよう

連合壮年会が巡礼を企画

鹿児島カトリック連合壮年会(徳永善廣会長)では、来たる十二月七日(日)に献堂百周年記念式典を挙げる瀬留教会に「鹿児島本土から少しでも多く駆けつけよう」と巡礼を企画し参加者を募集している。

壮年連合会で用意した企画は「A」「B」の二コース。Aコースは、十二月五日(金)十八時鹿児島島を船で出発し、翌六日(土)パウロ年の巡礼指定教会「嘉渡教会」を訪問、その夜は奄美市のホテルで地元信者達と交流し、七日(日)の瀬留教会での式典に参加。Bコースは、十二月六日

(土)十八時鹿児島島を船で出発し、翌七日(日)の瀬留教会での式典に参加するとしている。

両コースとも帰路には飛行機(七日十八時発)を利用する。募集人員は両コースとも二十五人ずつで、参加費はAコースが三万九千五百円、Bコースが二万九千五百円となっている。

パウロ年祈りの巡礼地図



パウロ年(今年六月二十八日)を有意義に過ごすことを訴えている教区では、教区内にあるパウロにささげられた教会(瀬留、平土野、南種子、玉里)への巡礼を勧める。ともに、都合で巡礼できない人のために「祈りの巡礼」

を企画した。これは聖パウロが宣教で訪れた町を地図で追いつながら、その町々でロザリオの祈りをささげるといふもの。イラスト風の地図は純心聖母会のシスター山頭信子の手によるもの。教区ではすでに小教区宛に見本を届けてあり、希望者は複写して使用して欲しいとしている。またこの地図は教区のホームページからも入手できる。そしてこの地図を利用してささげられた祈りは、来年の閉幕のミサで奉納されることになっている。

11月

今月の暦

- 1日(土) 諸聖人
- 2日(日) ▼ザベリオ宣教会准総会・8日まで
- 2日(日) 死者の日
- 6日(木) カトリック教師の会研修会・8日まで
- 9日(日) ラテラン教会の献堂
- 10日(月) ▼メニヒ神父霊名(テヨドル)
- 10日(月) レデンブートル会例会
- 10日(月) ▼ガブリエル神父命日(一九七八年)
- 16日(日) ▼柳本繁春神父霊名(レオ一世教皇)
- 16日(日) 年間第三十三主日
- 16日(日) ▼レオ税所七右衛門顕彰碑除幕式・川内教会・14時
- 17日(月) ▼聖書週間・23日まで

神の愛を知り、神の心を受け取るために、わたしたちは新約聖書と旧約聖書を神のことばとして読み、大切にします。「聖書週間」は、すべての人、とくに信徒が、この聖書に「より強い関心を持ち、親しみ、神の心に生きる」ようになるための週間です。

各教区では、聖書への感心を高め、より親しむために、講演会、研修会、展示会などの催しが計画されます。このような催しに進んで参加するとともに、自分でも積極的に聖書に近づきましょう。たとえば、毎日欠かさず聖書を一章ずつ読む方法や、ミサにあずかれなくても、ミサの聖書朗読の当日分を毎日読む方法も勧められています。(カトリック教会情報ハンドブックから)

- 17日(月) 教区司祭会・教区本部・16時
- 18日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
- 20日(木) 三木巖神父命日(二〇〇〇年)
- 23日(日) 王であるキリスト
- 23日(日) ▼シドゥッチ祭・屋久島教会
- 24日(月) 「ペトロ岐部と一八七殉教者」列福式・長崎市・12時
- 30日(日) 待降節第一主日

第五回聖パドレ・ピオの集い

- 日時 11月9日(日) 14時~17時
- 場所 マリア教会聖堂
- 指導 ペトロ神父(カプチン・フランシスコ会)
- 内容 聖体賛美式・ロザリオの祈り・ミサ・いやしの祈り

※自由献金になっています。小さく貧しい祈りの集い
連絡先 TEL〇九九七―五二一―〇三三九(聖心教会)

文芸

【詩句】

純心学園 山頭信子

祭壇に裸足の助祭平伏して

ござ敷いて家族待ちたり運動会

純心学園 川上 和

まな鶴の降り立つ田園稲穂波

鹿児島 春山マリ子

手を合はせマリアを仰ぎ主の祈り

鹿児島 徳永ノブ子

手を合せ祈る心の夕月夜草の花摘みてコップの茶の間かな

国分教会 政ノブ子

火の如く風にとびちる曼珠沙華

鹿児島 上野千穂子

ロザリオを繰りつつ仰ぐいわし雲

授かりし子の名は恵秋高し

【短歌】

鹿児島 春山マリ子

友が居て宝石見たいに輝やけり生きる命の喜び知るや

鴨池教会 前田儀子

空虚なる部屋に息づくかつての日エレクトーン弾き

聖歌口づさみし妹よ

死の国へむかふゴーギヤンの祈りともアダムとイブの絵は凄まじき

純心学園 岡 俊郎

人生は何を求めて生きるのか働く体保つ命ぞ

桜島小ミカン求め日々ののしい心をこめて今日も食みたり

純心学園 川上 和

列福の栄光輝く七右衛門証しの殉教模範と仰ぐ

溝部 脩司教(列聖列福特別委員会委員長) 講話から

列福式を有意義に迎えるために

―経緯・選定基準・その意義―

十一月二十四日はいよいよ長崎市で一八八殉教者の列福式がある。教区では、この列福にローマとの交渉にかかわってきた列聖列福特別委員会の溝部司教の全国広報担当者会議(今年六月十七日)での講話資料(一部)を紹介することで、なぜ今の時代に列福の運びとなったのか、またその選定基準やそれらの意味することを心に刻んで、式典に臨んでほしいと願っている。

十一月二十四日はいよいよ長崎市で一八八殉教者の列福式がある。教区では、この列福にローマとの交渉にかかわってきた列聖列福特別委員会の溝部司教の全国広報担当者会議(今年六月十七日)での講話資料(一部)を紹介することで、なぜ今の時代に列福の運びとなったのか、またその選定基準やそれらの意味することを心に刻んで、式典に臨んでほしいと願っている。

今日までの経緯

一九八一年ヨハネ・パウロ二世は長崎を訪れた際、当時の長崎大司教に「日本は殉教者の国であり、彼らを顕彰することを大事にするように」とおっしゃった。これを契機にして、日本司教団は一九八二年、司教団のイニシアチブとして日本殉教者の列福を促進することを決定し、一九八四年列福特別委員会が結成された。その中の歴史調査委員会は日本殉教者を特定する作業を、法制委員会は評判

コ会主導のものであった。日本司教団は、今回の列福を日本教会主導のものとして希望した。

一八八人の選定基準

選定には多くの問題があった。それは日本にはあまりにも殉教者が多すぎることである。殉教者の氏名、殉教の場所、日時がはっきりと分かっている者だけでも五千五百を下ることがないし、匿名の者を数えれば二万はいると考えられる。キリシタン時代最高の信者数を誇ったのが四十万ない

し四十五万であれば、その割合から言って日本の教会はまさに殉教者の教会と言える。しかし、それを全部列福に向けていくのは不可能であった。どうしてもある人に絞って選ぶ必要があった。この意味では、今回選ばれた殉教者がすべてでないことが分かる。百八十八人というのは、選ばれなかった他のすべての殉教者を含んでいるのである。

①日本人に絞る。今までの聖人は外国人の司祭が多かったことと、日本人信者に自信をつけさせたいとの希望からである。

②日本教会全体を網羅する。長崎のみに限らない。

③信徒を重点的に取り上げる。信徒の時代を反映させる。

④女性、子ども、障害者などを取り上げる。

⑤代表的司祭を選ぶ。四

列福式の流れ

11時30分	DVD上映(一八八殉教者の紹介)
11時55分	案内・ミサ解説
12時00分	開祭
12時15分	列福式
13時00分	ことばの典礼
13時30分	感謝の典礼
14時00分	交わりの儀
14時30分	閉祭

人の司祭と一人の修道者を選んだ。

これらから分かることは、多くの選ばれなかった殉教者が大勢いるということである。

何を目的として列福運動を行ったか

列福・列聖特別委員会の主な目的は啓蒙の仕事であった。列福式の具体的な作業は長崎大司教区に任せられている。委員会の仕事は日本の教会に向けて「殉教とは何であるか」「殉教の意義は何であるか」を伝えていくことであった。

尊重に基づく国のあり方などに光を投げかけている。※列福運動は単なる昔の歴史の物語ではなく、現代に生きる人々に向かって、強く、温かいメッセージを送ることを意味している。

困難だった点

最大の問題は、日本で資料を揃えてローマに提出すれば、すべてローマがしてくれればいいんだけど、それが、その意義をローマに説明し、現代の日本にとってどうしても必要なことであるというのを理解してもらおう努力を怠ったことにある。気づくことは遅かったが、それでも気づき、ともかく粘り強く交渉して、最後にまでこぎ着けることができたのは幸いであった。やはり最後は殉教者に対する熱意と熱い想いと情熱だと思ふ。今から列福式に

向けて具体的歩みが始まるが、これには種々の具体的な困難がくると思われる。長崎大司教区と心を一つにして委員会としては協力したい。今年、殉教者週間を設けてパンフレットを作成し、日本全国で殉教者を想い、黙想し、祈ったのはよかった。また、列福に向けた殉教者の伝記を含めた小冊子を発行したのもよかった。現在子どものための教材として殉教者の列伝を準備している。更に私は「殉教者から現代へのメッセージ」と題して一雑誌に連載を予定している。また上智大学と提携して「ボジチオ」(イエズス会文書)の翻訳を試みている。これら一連の作業が現代日本への啓蒙となることを期待している。(迫害の原因と教会の対応)は省略。

伊集院城山巡礼に参加して

吉野教会 木ノ下佳代

二〇〇八年九月二十八日、かねがね望んでいた伊集院城山巡礼に初めて参加しました。巡礼距離はおよそ二十五キロ。実感の湧かないこの数字に不安を抱きつつも、「達成したらどんな気持ちになるのかな」と、新たな自分との出会いに期待し、高揚感いっぱい眠りについた前夜でした。

そして迎えた当日。参加者全員で神さまへ祈りをおさげして、いざ出発！。小雨が降るすつきりとしないう天気でしたが、参加された方々の足取りは軽く、皆さん晴れやかな表情で進んで

いきまず。初めてお会いする方が多く、はじめは少し緊張気味でした。しかし、どなたも気さくに声をかけて下さり、長い長い水上坂を上り最初の休憩地点に到着する頃には、その緊張はすっかりほぐれていました。途中、ヤジロウのお墓に手を合わせ、予定より一時間ほど早く、全員無事に城山公園に着！。やぐらの下でとった昼食、

そして屋外であずかったごみサは特別なものとなりました。巡礼を終えて感じたのは、一人では決して成し遂げられなかったということ。互いに

励まし合ったり、聖歌を歌ったりする中で、皆さんと一緒に辿り着きたいという思いが強固になつていくのを感じました。今回巡礼に参加できたこと、そして、ザビエル様を慕い集まった

信者の方々との出会いに感謝します。四百五十年以上前に、この道のりを歩かれたザビエル様の中の困難さは、現代の私たちの比ではありません。ザビエル様にとつても、共に歩いたヤジロウの存在が強い支えになっていたと思ひます。

神さまのみことばを広めたいという、強い情熱と高い志をもって歩まれたザビエル様。私たちがザビエル様のように、神さまがお与え下さった使命に気付き、真つ直ぐに歩んでいくことができますように。

列福式実行委員会 救護部からのお知らせ

1. 保険証または保険証のコピーを持参して下さい。
2. 日頃服用している薬は忘れずに持参し服用して下さい。
3. かかとが低い靴など、履き慣れた靴や日頃使用している杖を持参して下さい。
4. 天候に注意し雨具の準備をし、傘は式典が見えにくくなるので、できればレインコートを用意して下さい。
5. 朝食、昼食を摂ってから式に参加し、空腹の状態では参加しないで下さい。
6. 事故発生や気分が悪くなった時は本部または近くの救護班(095-845-6222)にお知らせ下さい。
7. 救護所や救護班の位置は前もって確認しておいて下さい。
8. 入場許可証の裏面に氏名、年齢、連絡先、治療中の病気を記入して下さい。
9. 気分が悪くなってトイレに行く時は、トイレで倒れることが多いので必ず周りの人に付添を依頼して下さい。
10. 気分が悪くなったら無理をせず、救護所で休んで下さい。